

三菱自動車、デザインを一新した現地生産モデル『ミラージュ G4』をフィリピンで発売

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）は、フィリピンで現地生産しているコンパクトセダン『ミラージュ G4』*のデザインを一新し、8月28日に同国で発売しました。



『ミラージュ G4』

『ミラージュ G4』はコンパクトハッチバック『ミラージュ』の派生車として2013年に発売した1.2Lエンジンを搭載する4ドア5人乗りのコンパクトセダンです。今回の大幅改良ではデザインを一新し、三菱自動車のフロントデザインコンセプトであるダイナミックシールドを採用したシャープでダイナミックなエクステリアを実現、インテリアには7インチスマートフォン連携ディスプレイオーディオ（SDA）を採用し利便性を高めています。

『ミラージュ G4』の世界累計販売台数は2021年7月末までに約37万台、フィリピンでの累計販売台数はタイからの輸入と現地生産モデルを合わせて約9万2千台に達しています。フィリピンにおいては、同国政府の自動車産業育成政策「CARS Program」の支援を受けた初めての案件として、生産・販売会社である三菱・モーターズ・フィリピンズ・コーポレーション（以下、MMPC）の車両生産工場では2017年より生産しています。

当社社長の加藤隆雄のコメント

「今回の『ミラージュ G4』は、これまでの使い勝手の良さを保ちながら、より安定感のある、アグレッシブで力強い外観としています。また、これまで『ミラージュ G4』はサンタローザ市におけるMMPCの工場と、自動車部品サプライヤーを通じて雇用機会を生み出し、フィリピン経済にも貢献してきました。2022年モデルの投入によって現地生産を強化し、フィリピン市場にさらにコミットしていきます」

*一部の国・地域では『アトラージュ』として販売

以上